

けいあい『SUKU☆SUKU』サロンだより 13号

令和8年(2026)5月

*****☆話題***『成長を味わう』***☆*****

アジサイの花が咲き始めました。もうすぐ6月です。
緑も一段と深まり 鳥のさえずりも 変化してきました。

お子さまたちの姿も…おおきく変化…。

1歳の新入園児…当初 泣いている子がいました。
すると 同年齢の進級児のお子さまたちが
おもちゃをかしたり 頭をなでたり …

そして 3日・4日で すっかり園になれ
笑顔で生活できるように になりました。

あのととき 心配したこと・悩んだことも

すべて… 子育ての かけがえのない思い出となります。
コンビニエンスの時代・AIの時代だからこそ…

二度とない 今のお子さまとの

『よろこびの時間・空間』を大切に

味わわないと もったいない・もったいない…。 🍷*^_*☀



☆『SUKU☆SUKU』の日(サロン・相談 セミナー)は 2ヶ月に 1回です。

次回は…

『SUKU☆SUKU』**サロン**は 6月6日(土)10:00~11:00 敬愛ガーデン*さくらルーム

『SUKU☆SUKU』**セミナー**は 6月6日(土)14:00~16:00 敬愛フレンド保育園*IB(ア化^-)ホール
テーマ『ことばあそび もの・がたり』

対象の方は 原則・敬愛学園各園(学童クラブも含みます)の保護者の方です。

なお お子さまのおあずかりは 在籍する各園にお申し込みください。

個別の相談がある場合 **サロン**は 1時間となります。 お問い合わせは

敬愛こども園:042-663-4040(星野) tomoka-hoshino@keiaigakuen.com

敬愛フレンド保育園:042-678-2921(石井) ayako-ishii@keiaigakuen.com

*****☆☆***『詩ごころ』を楽しもう***☆☆*****

お子さまの 一つ一つの紡ぎだす言葉は ほんものの「事(こと)」の「端(は)」です。

☆ タケノコの ブツブツしてるの め(目)なんだよ

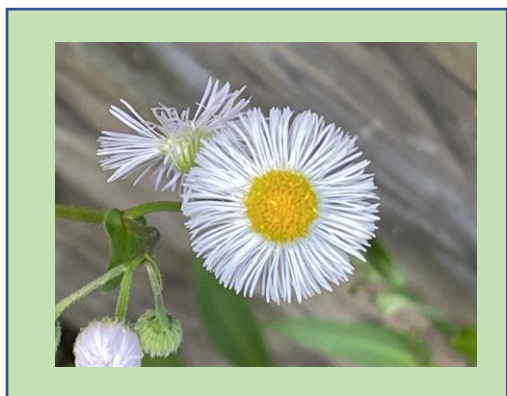
ニョキッとしたとこ かいてみたんだ

タケノコほりの後 絵を描きました …

☆フムフム…!!(^0_0^)イイね ***

子どもたちイメージ力は すばらしい力です。日本語の「イメージ」は 多様な使い方をしますが
「現実を超える力」でしょうか。 現実ではないのですが「なりきる力」「おもしろみできる力」…で
す。 この力「人生の核」となる力です。そして この力は「期間限定」なのです。

*****☆☆☆☆***** サロンの星くず ***☆☆*****☆☆*****



『ハルジオン』・・・
どこでも見かける花です。もしかしたら・・・
「びんぼうぐさ」などと 覚えている人もいるかも知れません。
でも よくみてください。 この花弁の美しさ・・・
大正時代に観賞用として 日本に入ってきました。
ハルジオンの名前は 植物学者の牧野富太郎博士がつけまし
た・・・ 春に咲く紫苑(シオン)という意味です。

^_☆☆ みてね！

*****☆☆☆☆***** 本とあそぶ ***☆☆*****☆☆*****

よい本の判断は まずご自分(大人)が 本当に楽しめるかどうかです。その姿が 子どもた
ちの学びになります。「本とあそぶ」 はじめてみませんか・・・今回は

☆ 『子どもを描く』

福音館書店編集部 編

(福音館書店 2026 年 4 月 初版発行)

『はじめてのおつかい』『おでかけのまえに』
『おふろだいすき』『こんとあき』・・・
『魔女の宅急便』のさしえも

ご存じの方も多いと思います。みんな林明子さんの
作品です。林さんの作品を見て・・・

アニメの宮崎駿さんは「ああ、そういうことが ぼくにも
あったような気がする」って 自分の中で眠っていた体験が
よみがえってくる絵・・・ と評しています。

そうなのです。私も自分の「はじめてのおつかい」を
思い出しました。買いに行った品物は「父のタバコ(商品名:『バット』)」でした・・・
今なら「子どもに タバコを買わせるなんて・・・」と思いますが・・・
私は あの時のドキドキ感を思い出すのです。途中 忘れまいと「バット・バット・・・」と言いながら行った
のですが どこで間違えたのか・・・ 「バット」でなく「グローブください！」と言ってしまったので・・・
買うことができませんでした。今でも 家で 父母が大笑いしていたのを思い出します。

世界的な絵本作家の五味太郎さんは「スペシャルなうまさ」と評価しています。
この本『子どもを描く』の表紙絵・・・(※上の絵をご覧ください) 「鞆(かづ)のふくらみと あき(主人
公)の持つ手つき・・・これだけでただ者じゃない・・・」と評価しています。

そうなのです。林さんの絵からは 人の表情やしぐさだけでなく 物からも 心の動きが伝わってくる
のです。臨場感でしょうか。空気感でしょうか。形のある光や影だけでなく、まわりの人々の話し声
や息づかいまで聞こえます。

この本『子どもを描く』は 林明子さんの童話づくりの裏話です。でも 読み進めるうちに・・・
子どもと大人の大切なものを 自然に語ってくれる 一つの「大人の童話」のようにも感じます。

文責: 加藤康紀

